

川島つゆ著作目録

——大正期と昭和二十年——

古 庄 ゆ き 子 編

凡 例

○ 随筆類 ※ 物語・小説類

◇ 短歌・俳句・詩類 ◎ 単行本

△ 評論・研究論文 □ 共著・共述

○ 以上の分類は便宜上施したものである。川島つゆ女史の著作は、随筆と小説・随筆と評論・評論と研究論文の区別の判然としないものが多い。むしろそれが一つの大きな特色となっていることを付記する。

○ 大正期の筆名は「川島露石女」「露石女」「つゆ」「つゆ女」「川島いし子」等が多い。「川島つゆ」は昭和期に入って主となり、やがてこの筆名に統一していったようである。

○ 掲載誌号数は確認できる限り、月号、巻、号、通巻号にわたって入れ、不明分は判別できるものを記した。

○ 川島女史自筆書入れ等によって執筆時の明らかな分はそれに従って整理し、他は発表時を記した。

○ 目録作成に当って鹿児島大学大内初夫教授に御助言を、別府大学

国文科卒業生東京在任の高木久代さんに御協力をいただいた。

○ 本目録は、一周忌に作成したもの（自家製版）に、改訂、増補を施したものであるが、いまだ決定版とはいえない。大方の御教示を願う。

大正期

大正三年（二十四才）

7月 相州大雄山行 「智仁勇」7月号（未見）

○ 花火の夜 「新修養」8月号

8月 ○ 鎌倉山の一夜

「ホトトギス」第十八巻第二号（子規居士十三回忌記念号ノ二）

9月 ※ 見合 「俳味」 11月号

11月 ○ 露けき夜 「俳味」（第五巻十号）

※ 十一月の半 「俳味」4年1月号

大正四年（二十四才）

2月〇お歳喜配り

「俳味」

2月号

4月◇(短歌七首)

「俳味」

4月号

◇(俳句七首 瓊音選中)

「俳味」

4月号

5月〇火事

「俳味」

6月号

※猫

「夕空」

6年1月号

6月◇(俳句五句 瓊音選中)

「俳味」

6月号

7月〇(短歌十一首)

「俳味」

7月号

9月(?)〇伊香保より

「大太刀」9月号

〇少女方のために「少年俳句界」9月号(?)

10月※私の十五夜

「大太刀」10月号

11月◇(短歌二十一首)

「俳味」11月号

〇(其の五)

「大太刀」11月号

12月◇(短歌二十首)

「俳味」12月号

4月中※山に居て

「夕空」5年12月号

大正五年(二十五才)

2月※手術 「ホトトギス」

(第十九卷五号、通卷二百三十四号)

10月〇酒の銘

「大太刀」10月号

〇庖丁と指と

? 10月号

11月〇お師匠さん

「大太刀」11月号

大正六年(二十六才)

1月〇(無題、新年女三人欄)

「無花果」1月号

2月〇靡り

「大太刀」2月号

3月〇無題

「夕空」3月号

4月〇春は淋しい

「夕空」4月号

5月◇ひそむ思ひ

「近代芸術」創刊号

6月◇銀の虫

「近代芸術」6月号

〇雨だれの音

「心の花」6月号

7月※夕涼み

「大太刀」7月号

1月〇9月連載

※ 白い蝶 「無花果」

(途中「ながれ」「合歡」に改称か)

大正七年(二十七才)

1月◇水銀

「海浪のごとく」?

5月※浅黄暮

「心の花」5月号

(第二十二卷第五号)

大正九年(二十八才)

1月※夢のお猿

「旅の日記」?

大正十年(二十九才)

3月△芭蕉の句

「小車」創刊号

(第十号)

10月△俳人野坡の姓

「書画珍本雑誌」10月号

(第七号)

大正十三年(三十二才)

9月(?) □ 棋窓布席と其の俳句

—近代俳人の研究(第一回)

「にひはり」 9月号(?)

11月△芭蕉と女性「にひはり」

11月特輯 芭蕉号

11月□ 藤森素槩と其の俳句

—近代俳人の研究(第三回)

「にひはり」11月号

◇ 新連句詠草(晋風抄中)

「にひはり」11月号

12月(?) □ 花長老春樹と其の俳句

—近代俳人の研究(第四回)

「にひはり」12月号(?)

5月○ 神山御嶽(一)

「書画珍本雑誌」5月号

(第九号)

9月○ 神山御嶽(二)

「書画珍本雑誌」9月号

(第十号)

11月※ 貧しい支那皿

「処女地」11月号

(第八号)

12月※ 目標のない生活「処女地」

12月号

(第九号)

○ 台覧競漕の日「書画珍本雑誌」

12月号(第十一号)

大正十二年(三十一才)

1月◇ おばさん

「処女地」終刊号

○ 瓜の花

「処女地」終刊号

大正十四年(三十三才)

5月○ 御嶽の七さん

「書画珍本雑誌」5月号

6月※ Je viens aime 「真砂」6月号

○ この年のものと考えられて、月号未確認のもの。

? ◇ (連句) 錦風・露石両吟

「にひはり」?

□栗田樽堂と其の俳句

―近代俳人の研究(第五回)

「にひはり」?

? □飯島吐月と其の俳句

―近代俳人の研究(第六回)

「にひはり」?

? △添削と句評「にひはり」?

□児島大梅と其の俳句

―近代俳人の研究(第七回)

「にひはり」?

? □炭太祇と其の俳句

―近代俳人の研究(第八回)

「にひはり」?

? □炭太祇と其の俳句(続)

―近代俳人の研究(第九回)

「にひはり」?

? □炭太祇と其の俳句(続)

―近代俳人の研究(第十回)

「にひはり」?

大正十五年(三十五才)

一月◎一茶俳句新釈

紅玉堂

(?) □榎本星布女と其の俳句

―近代俳人の研究(第十一回)

「黄橙」1月号(?)

2月(?) □榎本星布尼と其の俳句

―近代俳人の研究(第十二回)

「黄橙」2月号(?)

(?) △捨鶏について 「黄橙」2月号(?)

△桜を見ぬ桜の国の人 「桜」?

3月△木母寺「芭蕉翁臨滅度之図」碑について

「史」3月号

(?) □樽庵麦水と其の俳句(上)

―近代俳人の研究(第十三回)

「黄橙」3月号(?)

4月(?) □樽庵麦水と其の俳句(下)

―近代俳人の研究(第十四回)

「黄橙」4月号(?)

5月○漫話漫説 「読書人」5月号

○因業婆の話「書画珍本雑誌」

5月号

? □春秋庵白雄と其の俳句(上)

―中興俳諧史研究(第十五回)

「黄橙」5月号(?)

6月(?) □春秋庵白雄と其の俳句(下)

―俳諧史の研究(第十六回)

「黄橙」6月号(?)

7月(?) □無為庵樽良と其の俳句(上)

俳諧史研究(第十七回)

「黄橙」7月号(?)

△江戸時代の二茶「早稲田文学」7月号

(二百四十六号一茶百年記念)

9月△野性の愛 「黄橙」9月号

一茶百年号(第一卷第九号)

◇(俳句三句、例会・各地会報欄収)

10月△涼熱往来 「黄橙」10月号

(第一卷第十号)

△黒沢氏の「二茶研究」について

「黄橙」10月号

12月△柏原より野尻湖へ 「史」12月号

△紙袋に書いた一茶遺稿

「早稲田文学」12月号

(二百五十一号)

(?) □春泥舎召波と其俳句(上)

—俳諧史研究第二十回

「黄橙」12月号(?)

○大正期のものと考えられて、発表年次、掲載誌名未確認のもの

○酒屋の猫

※おとつれ

◇(病中吟三句)

※窓の世界

※枯野

「俳味」

「俳味」

「少年俳句界」

「少年俳句界」

◇彼の日の後に(短歌十首)

△芭蕉の見た桜と一茶の見た桜

○真問より鴻の台まで 「黄橙」(?)

◇(連句 国府台の句中) 「黄橙」(?)

◇初御空(露石・錦風両吟) 「黄橙」

◇新連句(華外・晋風・つゆ女三吟)

「黄橙」

◇新連句会詠草(鳩里、箕谷、露石女三吟)

「黄橙」

◇(俳句一句) 「黄橙」

◇(俳句四句「藤村先生」外) 「黄橙」

◇市中(俳句十四句)

昭和二十年まで

昭和二年(三十六才)

1月○箱根漫筆

2月△一茶雑録

「史」1月号

□南無庵蘭更と其の俳句(上)

—俳諧史の研究(第二十一回)

「黄橙」2月号

◇(俳句五句 黄橙集(其一)収)

「黄橙」2月号

○春の一日

「史」2月号

9月△一茶村の秋 「都新聞」 9月24日 25日
11月◎句歌詩集玫瑰はまなす 境地社

○この年中のものと考えられて、掲載月の不明なもの

○朝妻桜
△興野の荳丹
「桜」(?)
「黄橙」

昭和三年(三十七才)

1月□芥川龍之介俳句研究
― 第一回 「境地」 1月号
(第二卷第一号)

◇時雨雲(同人句集(其一)欄収三句、他欄二句)

2月△七番日記の植物怪異
「境地」 2月号
(第二卷第二号)

4月◇さし柳(四月集欄収六句、他欄一句)

「境地」 4月号
(第二卷第四号)

5月○魚の銚舌

「境地」 5月号
(第二卷第五号)

6月◇五年越し(六月集欄収九句)

「境地」 6月号
(第二卷第六号)

7月□芥川龍之介俳句研究「境地」7月号

(第二卷第七号)
◎一茶の種々相 春秋社

8月◇うたたね(八月集欄収四句、他欄三句)

「境地」 8・9月号
(第二卷第八号)

9月(?)◇この半歳(俳句十九句)

「女人芸術」 9月号(?)

10月◇(谷中の会欄一句)「境地」10月号

(第二卷第九号)

昭和四年(三十八才)

9月◇春三巡 「女人芸術」 3月号
自伝的恋愛小説号
(第二卷第三号)

9月※鼠色の外套 「女人芸術」 9月号

(第二卷第九号)

昭和五年(三十九才)

2月○体格の不整を補う保護色

「婦人画報」 2月号

(通巻二百九十五号)

昭和六年(四十才)

2月◎一茶俳句新釈(再版) 大地社書店

川島つゆ著作目録 — 大正期と昭和二十年 —

4月※遭難 「明るの家」4月号

(通卷百六十三号)

5月※遭難

「明るの家」5月号
(通卷百六十四号)

(第六卷第六号)

□七部集鑑賞(其十)

— 些中庵土芳の俳句

「黄橙」6月号

7月◎歌集銀の壺

交蘭社

○夏の花(其の三) 「黄橙」7月号

(第六卷第七号)

昭和九年(四十一才)

12月○沼田つゆ子夫亡人通信

「理科大学簡易講習科同窓会誌」

(第八十二号)

昭和十年(四十二才)

3月○冬の花

「黄橙」3月号
(第六卷第三号)

□七部集鑑賞(其七)

— 落柿舎去来の俳句「黄橙」3月号

4月□七部集鑑賞(其八)

— 阿圭風兆の俳句「黄橙」4月号
(第六卷第四号)

○春の花

5月○夏の花(其の一) 「黄橙」5月号
(第六卷第五号)

□七部集鑑賞(其九)

— 趙北枝の俳句 「黄橙」5月号

6月○夏の花(其の二) 「黄橙」6月号

8月□七部集鑑賞(第十二)

— 冬の日の連句(其の二) 8月号
(第六卷第八号)

「黄橙」9月号

9月○花の随筆

(第六卷第九号)

□七部集鑑賞(第十三)

— 冬の日の連句(其の三)

「黄橙」9月号

10月□七部集鑑賞(第十四回)

— 冬の日の連句(其の四)

「黄橙」10月号
(第六卷第十号)

○花の随筆

11月□七部集鑑賞(第十五回)

「黄橙」10月号

―冬の日の連句(其の五)

「黄橙」11月号

(第六卷第十一号)

「黄橙」11月号

12月□芭蕉連句新研究(一)

「南柯」12月号

(第二十三卷十二号)

12月□七部集鑑賞(第十六回)

―冬の日の連句(其の六)

「黄橙」12月号

(第六卷第十二号)

○花の随筆

「黄橙」12月号

昭和十一年(四十三才)

2月○芭蕉連句新研究(四)

―物の親 「南柯」2月号

○七部集鑑賞(第十七回)

「黄橙」2月号

(第七卷第二号)

◎一茶俳句新釈(三版) 全葉社

3月○七部集鑑賞(第十八回)

「黄橙」3月号

(第七卷第三号)

6月□一茶の書翰二通「連歌と俳諧」

第二号

7月○白百合

「むらさき」7月号

(第三卷第七号)

○ある日

「東炎」7月号

(第六卷第七号)

昭和十二年(四十四才)

8月○七部集論

「古典研究」別冊附録

(第二卷第八号)

9月△千代女を語る「むらさき」9月号

(第四卷第九号)

昭和十三年(四十五才)

7月△蕪村名句鑑賞「国文学 解釈と鑑賞」

7月号(第二十六号)

昭和十四年(四十六才)

1月△未知数

「書物展望」2月号

(第九卷第二号、通卷第九十二号)

昭和十五年(四十七才)

1月○凡兆といふ人「書物展望」1月号

(第十卷第一号、通卷百三三号)

5月○園女の俳風

「国文学 解釈と鑑賞」

5月号 (第四十八号)

7月△真夏の孤独 「季節」 「天河号」

(第二卷第七号)

11月◎芭蕉七部集俳句鑑賞 春秋社

12月○コントは俳諧である

「あてね 日仏アテネ校友会報」

(第12号)

昭和十六年 (四十八才)

1月○小さなもの (東京婦人だより5)

「満洲新聞」康徳8年一月七日

8月△明朗な近代性「喜多」9月号

神田豊穂氏追悼号 (第十九卷九号)

11月○秋深く都会の静寂

「月明」露霜号

(第四卷第十一号)

昭和十七年 (四十九才)

2月○思出される話 「喜多」2月号

(第二十卷第二号)

○早春

「温泉」2月号

(第十三卷第二号)

4月△覚え書—本間丹野のことども

「喜多」4月号

(第二十卷第四号)

10月◎混成酒

「月明」初霜号

◎加賀の千代女

11月○知らざる者の手記「喜多」11月号

(第二十卷第十一号)

昭和十八年 (五十才)

1月□「真夏の孤独」

「日本の四季」

7月△覚え書—越人の手紙其他「喜多」7月号

(第二十一卷第七号)

9月△惟然・一茶、越人「書物展望」9月号

(第十三卷第九号、通卷第四百十七号)

10月△奥の細道のおく

芭蕉翁顕彰記念号

(第十三卷第十号、通卷四百四十八号)

○この年◇一茶と蠨螂 (未定稿) 「新曆」34号

(32年4月)

昭和十九年 (五十一才)

10月△新資料一茶連句

「書物展望」

(会報第四册)